

サテライトキャンパス先行事例 北里大学（相模原・十和田キャンパス）

1年次の学生が学部横断で相模原のキャンパスで学ぶことで、他学部とも交流しながら教養教育を実施。また、専門性の高い獣医学部を十和田市のキャンパスに設置しており、学生募集も比較的好調。

北里大学の学部とキャンパス



- 全学部の学生が1年次は神奈川県相模原市の相模原キャンパスで一般教養科目を学ぶ。
- 獣医学部は青森県十和田市の十和田キャンパスで、薬学部は東京都港区の白金キャンパスで、2年次以降、専門科目を学ぶ。

相模原キャンパス



<きっかけ>

- 昭和43年の衛生学部の相模原キャンパス移転を契機に教養部が大学の組織として正式に発足した。

<メリット>

- 授業や課外活動等を通し、他学部の学生と交流ができることで、視野が広がり、人間形成上のメリットも大きい。
- 一般教養科目を担当する教員は全員相模原キャンパスに配置しているため、経営上も効率的。

<デメリット>

- 1年次で単位を落とし、他キャンパスに進級した学生に対して、相模原キャンパスでの集中講義、DVD視聴、e-Learning等での特別な対応が必要。
- 1年次でも専門科目を教えることが必要なため、教員が相模原キャンパスに赴いて授業。
→(大学担当者)「コロナ禍も踏まえ、オンライン教育の導入が解決策となる」

十和田キャンパス



<きっかけ>

- 昭和41年に、かつて北里研究所の支所が存在した地域である十和田市の誘致を背景に設置。
- 約25万㎡の土地の寄付や、建物費用の提供(青森県及び十和田市)。

<メリット>

- 豊富な実習用家畜(大動物中心)を生かした教育・研究機会提供。
- 学生の生活費が安価。
- 学生が近所に居住しているので親密な関係を構築できる。

<デメリット>

- アルバイト先が少なく、賃金も低い。
- 他の地方から来る学生にとっては、引っ越し費用等、保護者の経済的負担が大きい。
- 獣医学科以外の学科については、学生募集が課題。

北里大学 相模原・十和田キャンパス

1. 相模原・十和田キャンパス設置の経緯

- ・1947（昭和22）年 北里研究所三本木支所開設
- ・1962（昭和37）年 北里大学衛生学部を白金キャンパスに開設
- ・1963（昭和38）年 北里研究所三本木支所廃止、北里研究所附属十和田農場開設
- ・1966（昭和41）年 北里大学畜産学部（獣医学科・畜産学科）を十和田キャンパスに開設
- ・1968（昭和43）年 北里大学衛生学部を相模原キャンパスに移転、教養部の設置

2. 現在、設置している学部学科等 ※（）内は2020年度入学定員

【相模原キャンパス】

- ・医学部（118人）、海洋生命科学部（180人）、看護学部（125人）、理学部（213人）、医療衛生学部（405人）、一般教育部※旧教養部 他

【十和田キャンパス】

- ・獣医学部 獣医学科（120人）、動物資源科学科（130人）、生物環境科学科（90人）
- ・獣医学系研究科 獣医学専攻（博士課程：3人）、動物資源科学専攻（修士課程：5人・博士課程：3人）、生物環境科学専攻（修士課程：5人）

3. 相模原キャンパスにまつわるQ & A



Q. 1年生を相模原キャンパスで教育することになった経緯を教えてください。

A.- 全学部の1年生が相模原で学ぶことが特長へ-

- ・1962（昭和37）年に港区の白金キャンパスに衛生学部を設置した同時期に、相模原の土地を購入しました。その後、相模原キャンパスへ衛生学部を移して、白金キャンパスに薬学部を設置しました。
- ・衛生学部を相模原キャンパスに移した際に、教養部というセクションをつくり、衛生学部の1年生と薬学部の1年生と一緒に相模原キャンパスで学んだ後に、薬学部の学生は2年生から専門科目を白金キャンパスで学ぶということにしました。その後、獣医学部（当時は畜産学部）ができましたが、十和田キャンパスに行く前の1年間は相模原キャンパスで学んでいます。
- ・最初は経営的な意図はありませんでしたが、今では全学部の1年生が相模原キャンパスで学ぶことが本大学の特長になりました。色々な学部の学生と一緒に学ぶことは大事だということで、そのシステムを残しました。





Q. 1年生を相模原キャンパスで教育するメリットとデメリットを教えてください。



A.- 多様な学部学生が共に学ぶ環境が大切-

- ・授業や課外活動等を通して、他学部の学生と交流ができるため、視野が広がり、人間形成上もいい効果があると考えています。例えば、獣医学部の学生が最初から十和田キャンパスで学ぶと、狭い領域だけで過ごしてしまいがちですが、相模原キャンパスで他の職業を目指している学生と交流できることが、社会に出た後も良い効果が出ているのではないかと考えています。
- ・1年生で、学部横断的に化学などの基礎実習を集めて行えるなど、一般教養科目を担当する教員は全員相模原キャンパスに配置しているため、経営上も効率的です。
- ・学部によっては、上京してきた学生は引っ越しを2回することになるので学生や保護者の負担は大きいと思います。ただ、東京圏出身者にとっては、相模原キャンパスであれば親元から通えるというメリットがあります。
- ・1年生で一般教養科目の単位を落とし、他キャンパスに進級した学生に対し、相模原キャンパスでの集中講義・DVD視聴・e-Learning等での特別な対応が必要になることが課題です。
- ・薬学部・獣医学部ともに、1年生の時から専門科目を教えることが求められているため、各キャンパスから相模原キャンパスに教員が赴き、一部の専門教育を行う必要もあります。
- ・このような点については、コロナ禍も踏まえ、オンライン教育の導入が解決策になると思います。例えば、十和田キャンパスで一般教育科目をオンラインで受講することができるようになれば、カリキュラム的にも余裕ができます。

4. 十和田キャンパスにまつわるQ & A



Q. 十和田キャンパス設置までの主な背景を教えてください。

A. -地域の主産業「畜産」に貢献する大学の誘致活動-

- ・十和田市には明治時代から陸軍の軍馬補充部があった他、青森県農業学校（後に三本木農学校に改称）が設置されていましたが、1946（昭和 21）年に三本木農学校の獣医学科が廃止されました。
- ・十和田市は、青森県の中でも畜産の盛んなところで、畜産や獣医に従事できる人材を輩出できる大学を誘致したいという気運があり、誘致運動につながったと聞いています。中心となったのは、三本木町長（後の十和田市長）と、北里研究所の教員や青森県獣医師会長などでした。
- ・北里大学と十和田市の縁は、1947（昭和 22）年に大学の前身である北里研究所にGHQから医薬品製造の要請があり、ジフテリアや破傷風の抗毒素血清製造のためには免疫血清馬が必要だったため、終戦直後、旧陸軍の軍馬補充部三本木支所跡地に北里研究所三本木支所が設置されたことにより始まっています。
- ・北里研究所三本木支所設置後、青森県や十和田市との関係が始まり、十和田市（旧三本木町）の農業畜産系大学誘致の機運と相まって、畜産学部の設置に至りました。



Q. 設置にあたり課題となった点や、その課題をいかに乗り越えたのかを教えてください。

A. -土地確保の課題-

- ・十和田キャンパスの土地は、等価交換、無償貸与、買い上げなど様々な経緯を経て今の形になりました。1965（昭和 40）年に青森県から校地約 2.3 万㎡が払い下げになった他、県有地約 23 万㎡を無償借地しました。1967（昭和 42）年には県有地約 2.2 万㎡を有償借地し、1968（昭和 43）年には牧場用地約 12 万㎡を買い上げました。
- ・1965（昭和 40）年に建設した畜産学部 1 号館は最初の建物ですが、青森県と十和田市から費用を負担していただいています。

A. -設立時の教員確保-

- ・もともと北里研究所三本木支所があったので、同所出身の教員が指導にあたった他、獣医・畜産関連の学部学科を持っていた関東以北の国立大学の教員 OB などに声をかけ、集まってくれました。





Q. 十和田キャンパス設置後のメリット・デメリットを教えてください。



A. -豊富な実習用家畜を生かせる教育・研究環境-

- ・開設当時の獣医学の中心は牛や馬でしたので、臭いなどについての周辺住民からの苦情を避けるため、都心に設置することは困難でした。青森県十和田市のようなところが獣医学部の教育の場としては好条件で、大動物を中心とした豊富な実習用家畜を生かした、教育・研究機会を提供できていると考えています。

A. -地元への経済効果-

- ・十和田市への年間の経済効果はおよそ 60 億円と推計されています。（学生約 1,300 名で月に使用する金額を 10~12 万円程度とし、年間約 15 億円。教職員約 130 名の平均年収を 600~650 万円程度として、年間約 8 億円。これに獣医学部の年間支出約 38 億円を加えると、約 60 億円という試算。）

A. -学生募集について-

- ・1965（昭和 40）年頃は、獣医師の存在が一般に知られていなかったこともあり、当初は志願者の確保に苦労しました。1 期生は青森県出身者が多かったのですが、昭和 50 年代から獣医が注目されはじめ、全国からの受験者が増えました。
- ・獣医学科は、専門性の非常に高い領域で、総定員も管理されているので、学生募集も問題ない状況です。一方、その他の学科については、少子化の影響もあり、入学者数確保が課題となっています。

A. -保護者の経済的負担が大きい-

- ・家賃が安いこと（平均約 4.5 万円）は学生等にとってのメリットです。しかし、食材等の物価がそれほど安いわけではないほか、アルバイト（飲食や小売業が主）の件数も多くななく、賃金も高いわけではないので、首都圏から来る学生にとっては、保護者の経済的負担が大きくなっています。

A. -十和田市への就職者が少ない-

- ・獣医師養成大学は国内に偏在していることもあり、全国的に獣医師系の地方公務員が足りていないため、卒業後は出身県の地元で地方公務員になるケースが多く、全国に分散して就職しています。
- ・県外から青森に来て、青森が好きになり青森県庁に入る学生も毎年数人いますが、大学があるから大学所在地の労働力の供給源になるかということ、必ずしもそうではない状況です。

A. -アクセスの課題-

- ・学会も東京が中心で、教員や大学院生にとっては学会出席の交通費が経済的負担になります。
- ・また、東京近辺ならば大型機械が故障しても業者がすぐに修理に来て直してくれますが、十和田キャンパスだと、旅費も請求されることになり、特殊機材の維持には予期しない支出がある場合があります。